

微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会
補修・補強の現状調査と課題整理部会（WG3）
第1回 WG 議事録（案）

議事録担当：松林

■日 時：2010年8月2日（月）16:00～18:00

■場 所：日本コンクリート工学協会 12階 第2会議室

■出席者：安田副委員長，堤幹事長，
（WG3）岩波主査，濱崎副査，谷村，横沢，松林
（事務局）福林

以上8名（敬称略）

■資 料：WG3 1-0 議事次第

WG3 1-1 委員会活動方針（案）

WG3 1-2 委員名簿

WG3 1-3 第1回 全体会議 議事録（案）

WG3 1-4 補修・補強に関する参考文献 ―コンクリート工学より―

WG3 1-5 コンクリート工学 目次内容検索結果一覧他

■議 事：

1. 開会の挨拶（岩波主査）

2. 委員自己紹介

3. 委員会設置趣旨

資料 WG3 1-1 により，本委員会の設置趣旨を再確認した。（堤幹事長）

4. WGの活動方針と成果のイメージ

WGの活動方針と成果のイメージについて，フリーディスカッションを行った。

- ・ 何をもって「健全性」とするか，明確にした方が良い（谷村氏）。
- ・ 「健全性」は管理者（施設の持ち主）によって設備に対する要求や機能が異なるため，一律に決めるのは難しいのではないかと。個人的意見だが，この委員会では当面「健全性レベル」を規定するのではなく，維持管理の現状がどうなっているかを明らかにしていくのがよいと思われる。その結果に基づき，2年目以降「健全性レベル」を明確にして活動を続けられればよい。（堤幹事長）

- ・ 建築構造物では、腐食ひび割れが発生するよりも前の段階で補修の要否が判断される。年数により補修を行う時期を判断する場合もある。調査事例は何万棟とあるはずであるが公表されておらず、データとして特筆すべきものも少ないと予想される。(濱崎副査)
- ・ 健全性のレベルを示すための指標は整備されていても、各管理者の予算の事情により絶対的な評価をすることができず、予算配分するための相対的な評価とならざるを得ない場合がある。(谷村氏)
- ・ UR などでは、公表されていないが調査のルールがある。耐震診断では、経年劣化に関して「経年係数」により評価する考え方もある。(濱崎副査)
- ・ 雑誌「コンクリート工学」より、補修・補強に関する参考文献を抽出した。耐震補強に関する事例が圧倒的に多く、これを調査対象に入れるか否かは今後の作業に影響する。まずは耐震補強も含めた調査を行うのが良いのではないか。また、「土木施工」など、コンクリート工学以外の雑誌についても調査を行っていききたい。(横沢氏)
- ・ JCI ホームページの検索サービスを用い、雑誌「コンクリート工学」について、補修または補強をキーワードとした検索を行った。また、岩波主査からのメールをもとに、耐震補強を対象とした1つの文献について、以下の項目を抽出した(資料 WG3 1-5)。
 - ① 補修・補強を実施することにした理由
 - ② 構造物の健全性をどう考えたか
 - ③ 補修・補強の方法をどのように決定したのか
 - ④ 非破壊・微破壊試験は活用したか
 - ⑤ 非破壊・微破壊試験は活用したら、どんなメリットがあるか (松林)
- ・ コンクリート診断士更新の研修会で用いられるテキストは、コンクリート診断士が実際に行った調査事例が数多く蓄積されており、参考になる。(濱崎副査)

(フリーディスカッションを踏まえた今後の活動方針)

- ・ 耐震補強は調査対象に含める。
- ・ まずは雑誌を対象として、事例の分析に必要な項目を整理する(資料 WG3 1-5 の表のイメージ)。
 - 土木技術 他 → 担当：横沢氏
 - コンクリート工学 → 担当：松林
- ・ 施設を保有する事業者関係の方は、自施設における調査例で提供できるものがないか確認する。
 - 担当：堤幹事長，岩波主査，谷村氏
- ・ 建築分野の関係法令や制度、UR 等の事例について整理する。 → 担当：濱崎副査
- ・ コンクリート診断士更新の研修会テキストを調査に用いることができれば調査対象とする。
 - テキストを調査に用いる可否を確認し、関係者に連絡する。 → 担当：福林氏

- ・ 次回 WG (10/13) 時に、調査状況の確認を行うこととする。

5. その他

- ・ 委員会の HP について

WG の議事録も全体会議と同様、HP に公開する。→ 担当：松林

WG の議事録については、各 WG 内の委員が持ち回りで作成する。完成した議事録は松林に集め、松林が HP にアップロードする。

- ・ JCI の関連委員会について

「既存コンクリート構造物の性能評価指針作成委員会」が活動中であり、そこでの検討内容や成果について注視しておく必要がある。

- ・ 現場視察について

次回全体会議で案を提示できるように、候補地の選定を行う。

→ 担当：堤幹事長，岩波主査，谷村氏

- ・ 次回 WG

日時：2010 年 10 月 13 日（水）16:00～18:00

場所：JCI 会議室

以 上